

令和二年度 薬学部 FD 研究会報告

小川 法子、徳本 真紀、山本 清司、巽 康彰、神野 伸一郎、鍋倉 智裕、
武井 佳史、安池 修之、古野 忠秀、村木 克彦、井上 誠 (委員長)

愛知学院大学薬学部 FD 委員会

令和 2 年度薬学部 FD 活動としては、第 1 回講演会（「研究倫理とリテラシー力を向上させるための手段としての DX (Digital Transformation)」 島本哲男先生 (ラボコンサルテーション (株) 代表取締役社長)、令和 2 年 12 月 14 日)、第 2 回講演会（「大学に求められる合理的配慮とは何か—思いやりから法に基づく支援へ」 阪田真己子先生 (同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室長 文化情報学部 教授)、令和 3 年 2 月 26 日)、ならびに FD・SD ワークショップ（「with コロナ、after コロナ時代における教育の在り方」をメインテーマとして、第 1 回「With コロナ時代の授業運営—大学教育のニューノーマルへの対応—」 令和 3 年 2 月 19 日、第 2 回「With コロナ、after コロナ時代の大学教育—どのような備えが必要か—」 令和 2 年 3 月 12 日）を Teams によるオンラインにて実施した。また、全学 FD 研究会が「with コロナ、after コロナ時代における教育の在り方」をテーマに、令和 3 年 3 月 18 日に Teams によるオンラインにて実施された。薬学部からは、2 回実施した FD・SD ワークショップで挙げられた本年度の課題と今後の方策、教職員からの意見について報告した。本年度は例年実施している「研究授業」を実施せず、代わりに上記の FD 講演会と FD・SD ワークショップにて、教育についての教職員の研鑽を図った。

講演会

第 1 回講演会は、製薬企業における創薬研究や研究所の組織構築のご経験を基に、研究情報管理におけるコンサルティングに幅広く従事されている、ラボコンサルテーション (株) 代表取締役社長の島本哲男氏に、「研究倫理とリテラシー力を向上させるための手段としての DX (Digital Transformation)」というタイトルで講演をお願いした。本講演会は、Teams によるオンラインにより実施し、研究倫理やリテラシー向上の観点から研究情報管理の重要性や電子化を進める必要性について話題提供頂き、教職員、学生の公正な研究活動の推進に役立てる機会となった。本学の教員 169 名、事務職員 2 名、学生 2 名の参加があった

(主催：薬学部、薬学研究科 FD 委員会、共催：歯学部、歯学研究科 FD 委員会)。なお、この内薬学部からの参加は、教員 44 名、職員 1 名、学生 1 名であった。

第 2 回講演会は、同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室長 文化情報学部 教授の阪田真己子先生に、「大学に求められる合理的配慮とは何か—思いやりから法に基づく支援へ」というタイトルで講演をお願いした。本講演会は、Teams によるオンラインにより実施し、障がいとは何か、ということから障がい者差別解消法によって大学に求められることについて話題提供頂いた。本学教員 183 名、事務職員 4 名、学生 1 名の出席があった (主催：薬学部、薬学研究科 FD 委員会、共催：歯学部、歯学研究科 FD 委員会)。なお、この内薬学部からの参加は、教員 44 名、職員 2 名であった。

ワークショップ

本年度は、「with コロナ、after コロナ時代における教育の在り方」をメインテーマとして 2 回の FD・SD ワークショップを開催した。

第 1 回ワークショップ

「with コロナ時代の授業運営—大学教育のニューノーマルへの対応—」

第 1 回ワークショップは、「with コロナ時代の授業運営—大学教育のニューノーマルへの対応—」をテーマに、令和 3 年 2 月 19 日に Teams によるオンラインにて行った。薬学部教職員 51 名 (教員 46 名、事務職員 5 名) が参加した。

「オンライン授業の現状を振り返り、その成果と課題を明らかにすることで、次年度への手がかかりをつかむ」ことを目的として、以下の 5 点を目標にグループワークを行った。

目標

- ①本年度実施したオンライン授業の現状を把握する。
- ②オンライン授業のメリットとデメリットを理解する。

- ③大学教育のニューノーマルへの対応策を考える。
 - ④教員と学生のコミュニケーションのあり方を理解する。
 - ⑤教員間、教職員間で課題を共有する。
- 10 グループ (5 名/1 グループ) に分かれて、①オンライン授業の現状と課題の整理 ②オンライン授業での指導方法 一次年度に活かすために—③次年度に向けた課題と解決策について話し合い、プロダクトを作成した。

オンライン授業を実施するために、学生、及び教員、大学施設の環境整備や授業運営について課題に挙げる教員が多かった。具体的な内容は、以下のものである。

オンライン授業の課題

【環境】

- ・PC スキルに個人差がある/PC環境に個人差がある
- ・使用機材に個人差がある (スマートフォンのみ/デバイスにより使えるソフトが異なる/PC にカメラ・マイク機能がない)
- ・利用ツールが授業により異なり、学生に負担がかかった
- ・ツールの利用方法について、ルールの統一が図られていなかった

30

オンライン授業の課題

【授業】

- ・ライブ配信型授業なのに双方向コミュニケーションがなく、オンデマンド型授業と違いの無い授業があった
- ・出席管理の方法が未提示であった、または統一されていなかったため、学生に混乱が生じた
- ・出席代わりに課題を提示することで、教員学生双方の負担が増える

31

第 2 回ワークショップ

「with コロナ、after コロナ時代の大学教育—どのような備えが必要か—」

第 2 回ワークショップは、「with コロナ、after コロナ時代の大学教育—どのような備えが必要か—」をテーマに、Teams によるオンラインにて令和 3 年 3 月 12 日に実施した。薬学部教職員 51 名 (教員 46 名、事務職員 5 名) が参加した。

「with コロナ、after コロナ時代における授業運営、学生支援、教職連携のあり方を具体的に検討する。」を目的として、以下の 4 点を目標にグループワークを行った。

目標

- ①with コロナ after コロナ時代の課題を共有する。
- ②コロナ禍においても学生の意欲を失わせないための設計・授業運営・評価のあり方を検討する。
- ③ポートフォリオを活用して学びと成長を促すことができるようにする。
- ④教員間、教職員間で課題を共有する。

「第 1 回ワークショップのふり返り」などの講義をしていただき、10 グループ (5 名/1 グループ) に分かれて、「授業づくり (課題の解決は可能か?)」、「教育目標に合わせた評価」、「教職で進める学生支援」について議論を行った。

□今回はコロナ禍の中での FD・SD となったが、Teams の TV 会議システムを活用し、対面のときと遜色なく実施することができた。また、教員もオンライン授業に習熟しており、スムーズに進行した。

□オンラインへの転換は強いられたものではあったが、いままでなかなか進まなかった授業への ICT の活用が一気に進み、既にスタンダードと化している。

□今後は、オンライン授業で得た知見や経験則を対面授業に活かし、より質の高い教育活動へつなげて行くことが必要になっている。

【総括】

薬学部 FD 活動として今年度は、2 回の講演会と 2 回のワークショップを実施し、それぞれに多くの教職員が積極的に参加した。新型コロナウイルス拡大防止のため、講演会とワークショップは、いずれも Teams によるオンラインにて実施したが、講演会では、例年よりも多くの参加者が得られた。また、本年度のワークショップは、グループワークを Teams によるオンラインにて行う、という初めての試みであったが、例年通りの積極的な参加がみられた。ワークショップを通して、「with コロナ、after コロナ時代における授業運営、学生支援、教職連携のあり方」に関する現状と今後の課題について、共通認識を持てたと考えられる。薬学部 FD 委員会では、これらの取組みを通じて、引き続き、薬学部の全入学生に対して、多様な視点から高度な医療人専門教育を推進するサポートを進めていく。